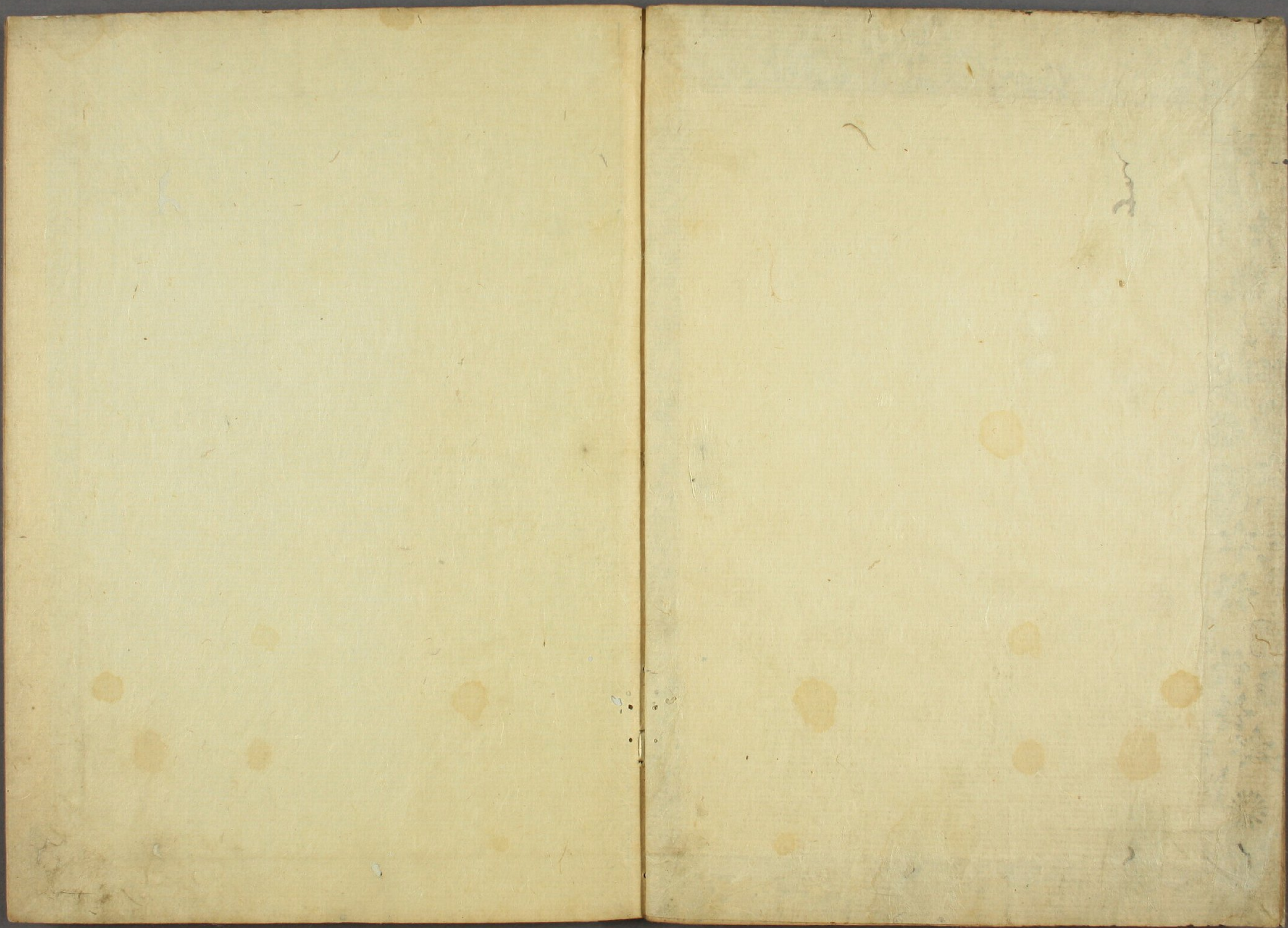


源注拾遺卷第一





源注拾遺卷第一



尚且名之
源注於遺 大意

一 倭人の廢敗ハ次實治通鑑ハ文勢司
 馬光の詞を由るべき。○今按此注ハ
 倭人通鑑ハ趙宋英宗治平三年小出
 後冷泉院治曆二年ハこれハ此物
 注ハかく記さる。○六月ハ保年あり。○
 一 於芥抄上末源氏物語目録部ハ廿五
 十明石 浦傳 卅二東屋 後序
 大ニ抄上ハ此ハ明石ノ次ハ浦傳ハ

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

かゝるにあらざればいふにあらざれば
はとていふにあらざればいふにあらざれば

又と海女文海女之事介らるるの事いふにあらざれば

此の事いふにあらざればいふにあらざれば

まゝいふにあらざればいふにあらざれば

いふにあらざればいふにあらざれば

又とあらざればいふにあらざれば

いふにあらざればいふにあらざれば

かゝるにあらざればいふにあらざれば

とあらざればいふにあらざれば

いふにあらざればいふにあらざれば

右使の事いふにあらざればいふにあらざれば

右母の事いふにあらざればいふにあらざれば

佐助の事いふにあらざればいふにあらざれば

司の事いふにあらざればいふにあらざれば

三位の事いふにあらざればいふにあらざれば

一 宗判友康に入道法名性昭のかけ紙室

物集書四小集記戒を記す云々

かゝるに

此の如き報一版為の時

これより

おの

これの徳女

これの徳女

此の徳女

此の徳女

を

一

○今此の徳女

これの徳女

此の徳女

これの徳女

此の徳女

此の徳女

此の徳女

此の徳女

此の徳女

於遠集卷二

たゞしき事なりては人の心はあし

くもつていふ事なりては人の心

はあつていふ事なりては人の心

あつていふ事なりては人の心

此二事いふ事なりては人の心

一 事と物とをいふ事なりては人の心

後のはあつていふ事なりては人の心

暗化これなり

一 明星を此の世にたもたふ源氏のた達の

成るなりぬる事なりては人の心

成るなりぬる事なりては人の心

初小姓なりては人の心

免弘九年なりては人の心

初少なりては人の心

終しとては人の心

或る日純の免弘六年なりては人の心

或る日純の免弘六年なりては人の心

後とくくはる

~~~~~

んきんをれあつはらぬとら

ゆふいけもとのりくまは

あふ坂のなと志まあし中あは

せれやうれはに後かきり

物執撰人教ふらるるふ出さるる

日報二海女のおこりて成りて真

くさつゆつ結くはる

後一位藤子

もくはれまをれれはらるる

りつ英友しつあはれはるる

後古今報中一海女おこりて英由

かきくまらるる。くまらるる

月屯口院

後中もつらぬはらるる福あは

むくくはるる。英友しつあは

迹

醍醐入をわが政大下如

今又小夫の... 神に

依はれはれ... 依りの中よ入る

権中納言云旅

神垣のむの白... 依り... 依り... 依り...

〜人よ〜

〜新儀古今... 依り... 依り... 依り... 依り...

前冬後能信

〜依り... 依り...

かゝれたるの程う遊〜文

ねね〜の〜花と

年意法〜

花意も成るに世々もふ〜人夫の

むあ〜〜〜

〜ちるも〜〜〜

〜と位者物程小は〜

中〜は〜〜

成りた〜〜

ちりりれの世ら業は〜も長分の好〜り  
けり〜

〜毛詩〜の関鴨名蝶斯木乃雲雨の依此乃徳

化を示〜鄭衛の結の淫移成〜

養恩も大乃〜但文章においひて

は鄭衛乃物と程〜

いん〜のら小養魚能礼き〜

乃又か〜小准〜

以云可放領也之教かく〜

一 越後も為時を或は或おちこころの造し  
石物遺集に別物と云ふは、  
西つらふおちこころは、  
昔物下の

兼東信規

新伎物も、  
一

一

まつ〜ひ〜あ〜侍〜。舟院乃中納  
りよ〜つ〜り〜。

友系性根

初〜と〜ひ〜美〜の根が〜れ〜  
初〜の〜ひ〜い〜ん〜も〜あ〜  
今治抄是ふ此抄もして終ふ死小乃と  
り〜時〜後〜氏〜呼〜く〜名〜初〜氏〜女〜、先〜り〜は  
り〜の〜あ〜り〜

又新勅撰新旅小友系性根、紙后下

り〜ゆ〜り〜る〜よ〜つ〜り〜。

伊智大捕

け〜い〜は〜ち〜い〜ら〜ん〜き〜い〜  
身〜に〜あ〜れ〜ぬ〜ら〜れ〜れ〜も〜き〜  
あれは父為時よ〜ら〜ら〜ら〜時乃あやう  
り〜れ〜い〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜一〜葉〜或〜ア〜ら〜  
は〜ふ〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜父〜の〜任〜て〜あ〜り〜  
時〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

一 為時の友系三木乃中納り〜り〜文を〜し



寄をこころむれども非親も非友也  
集るるにいと入る末乃集りてし  
予んてし

一 此物より流布の抄物普通乃帳名も  
遠く敷くあるが小巻もまたして  
人より人への伝の事ハ帳名の者  
紙が由とていけり

一 物後古々集雜中云源氏物語揚名今  
乃の伝忠者物り小巻物とていけり

飯原雜物

此人至徳と海と入又其乃  
金乃のりる

一 丹波志者物下

心あそふと世しつらつて

ゆつたつとつたつたの者

かくいあねと楊名同谷伝秘決あ  
これい久とていけり

此物より中乃寄来集り入るり





Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, consisting of approximately 10 lines of text.

その一節 物の下はあつた  
かきとるべし

夫々のいふこととわかれぬもの

あつたこととあつたことと

とぬしとわかれ

ふふふふふふふふふふふふ

あつたこととあつたことと

あつたこととあつたことと

一 三十九日大津しりふの傳記秘訣小書と

ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ

三夜式物語のよき事部と純として

ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ

楊名今の法法をいふ楊名実の物語

同巻小伝初をいふつる物語と

ふふふふふふふふふふふふ

中々道好や夾けあり

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, consisting of approximately 10 lines of text.



